

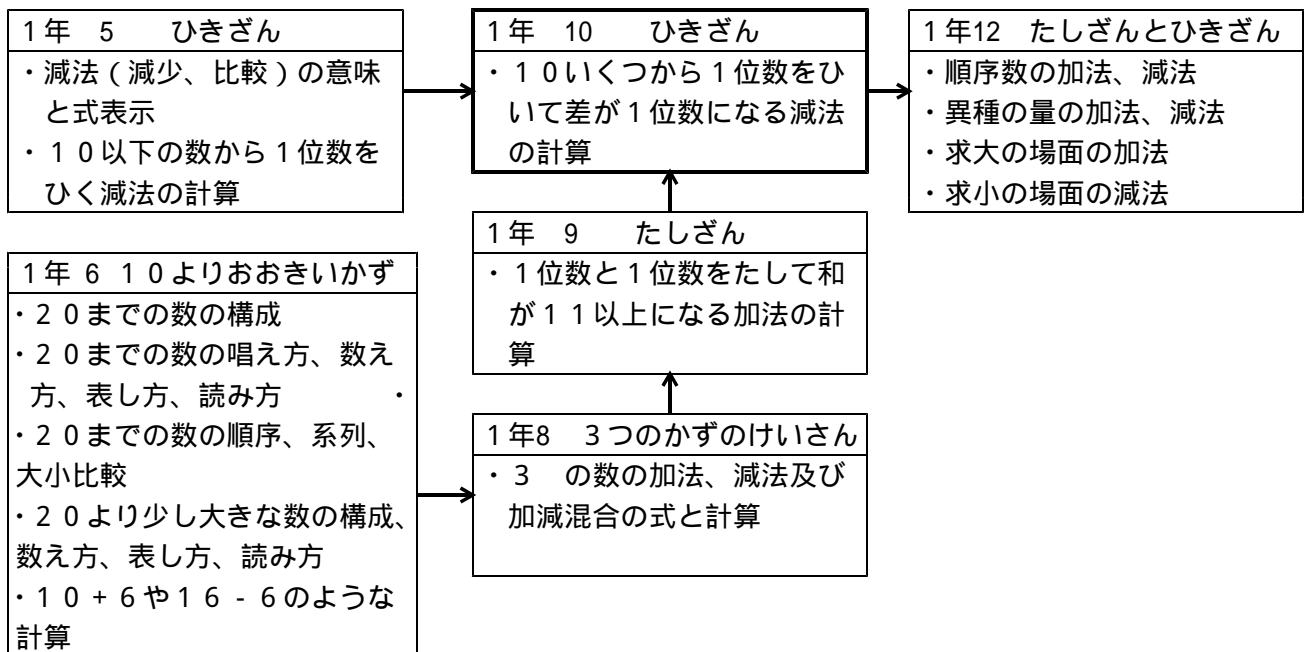
# 第1学年 算数科学習指導案

日時 平成17年11月24日(木)第2校時  
 場所 1年教室  
 授業者 谷口 直子

1、単元名 ひきざん

2、単元の目標 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になるくり下がりのある減法の問題を、ブロックを操作しながら考える算数的活動を通して、計算方法を理解し、正しく答えを求めることができる。

3、単元について  
 関連と発展



## 単元の構成

本単元の構成と「学習指導要領」との関連は次のようになっている。

< A (2) > 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。  
 イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、その計算が確実にできること

これまで、10以下の数から1位数をひく減法、 $16 - 6$ のような計算や3の数の減法でくり下がりはないが、10いくつから1位数をひく計算を扱ってきている。ここでは、10いくつから1位数をひいて、くり下がりのある計算を取り上げていく。くり下がりのある減法の指導で大切なことは、被減数(ひかれる数)を10といくつとしてとらえることである。ここでは、被減数を10といくつに分解して、10から減数(ひく数)をひいて残りの数をたす減加法(ひきたしざん)と被減数の一の位に目をつけて減数をその一の位の数といくつかに分解し、まず被減数の一の位の数をひいてさらに10から残りの数ひく減々法(ひきひきざん)がある。

加法よりも減法のほうが児童にとって抵抗があると思われる。それゆえブロックなどの操作と計算のしかたを対応させながら、その考え方をしっかり見につけさせることができるように指導したい。

4、単元指導計画(別表)

5、本校の研究との関わりから

研究主題

自ら進んで学び、確かな学力を身につける子の育成  
～少人数・複式学級での算数科指導の工夫～

願う姿と児童の実態

数学的な考え方を大切に、自ら追求し、課題解決していける子

実態：聞いていること、分かっている数、証拠の言葉から何算なのかを見通し、立式すること。前時との違いを見つけること。自分の考えを、ブロックやかずのせん、さくらんぼずなどを使ってホワイトボードに書き表すことが少しずつできるようになってきている。課題を自分たちで作ることはまだできない。立式したものと同じ式になる文章題を作って紹介しようとする姿もある。しかし、今はまだ時間制限をしていないこともあり時間がかかり、仲間学びにもう1時間必要となっているのが現実である。

仲間と共に生き生きと取り組み、わかりやすく自分の考えを伝えたり、仲間の考え方を理解し深めようとする子

実態：ブロックなどを動かしながら自分の考えを一応伝えられる子もいるが、書いてはいるものの説明にサポートが必要な子もいるため、教師と一緒に話しながら説明させることもある。

算数授業の進め方がわかり、自分たちの力で学んでいける子

実態：算数の司会は輪番制で行っている。司会者の「問題を読んでください。」のかけ声でみんなが問題を読み、その後挙手をして司会者の指名で「聞いていること」「わかっている数」「に算か、証拠の言葉は何か」を見つけることができるようになってきている。問題や式をノートに書きたがるが、時間がかかる。見通しをもつところまでは、算数の司会者が進めるがその先は今のところ教師が授業を進めるようにしている。

研究仮説

児童の実態に応じた、単元指導計画を工夫すれば、自ら進んで学ぶ子を育てることができる。個のよさが生きる授業を展開していけば、学習意欲が高まり確かな学力を付けることができる。

研究内容と本授業との関連

自ら進んで学ぶ力を付ける  
単元指導計画の作成  
・少人数や複式学級に応じた  
単元の指導

本時は、課題把握から仲間学びまでで1時間、ひとり学びを生かした仲間学びからまとめと評価までで1時間とった。問題作りの時間は、ひとり学びの際、児童がおこなうので単元指導計画の5/9は省略する。ひとり学びから仲間学びまでを1時間におさめるために今後何をどうしたらよいのか。

単位時間における個のよさを生かす学習過程の工夫  
・一人一人が自力解決できるための導入段階(問題提示から課題化)までの指導法の工夫  
・仲間との学びあいの工夫(ひとり学びを生かした仲間学びの工夫)

1年生の仲間学びはどうあったらよいのか、来年は複式学級が待っている児童達である。どんな力を伸ばしてやるといいのか。  
・学習リーダーの育成  
個に応じた指導の工夫  
・チェック表などを活用し、評価と指導の一体化を図る。  
・学年に応じた自己評価の工夫

主体的な学習を支援する環境の工夫  
・教室における算数コーナーの設置  
・算数の学び方の掲示  
・考えの過程の残るノート指導やホワイトボードの活用

ブロックやさくらんぼず、かずのせんなどをつかって自分の考えをホワイトボードに書き表すことが少しずつできるようになってきた。ノートを含めて今後どのような指導がいるのか。  
・基礎基本の定着を図るための朝タイムでの計算学習の充実



